



・・・メンバーの体験談・・・

私は学童保育所で指導員(近々支援員と名称が変わるようですが)をしています。放課後や学校の休業日、保護者がお迎えに来るまで子どもたちと過ごします。子どもたちと過ごす中で、2つの印象的な出来事がありました。1年生のK君、Y君と関わった時の話です。

K君は穏やかな性格で、男女問わず仲良くでき、大人の指示も良くわかり、自分で遊びを見つけていることができる、1年生の中では手のかからない子でした。その日はなぜか、K君がやけにまとわりついてきました。私は話し相手にはなっていました。が、他の子どもたちの様子や指導員の雑務が気になり受け流していました。K君には大人といえるよりも子ども同士で遊んでほしくて、話を切り上げるタイム

ングを探していました。そんな私の子にK君が「適当に話しているだけじゃないか」と言いました。それも、怒ったり責めたりすることなく、さらっと言ったのです。K君には私の気持ちが伝わっていました。本心を見透かされて完敗という気持ちでした。

この時、K君はいつも以上にちゃんと話を聞いて(聴いて)欲しかったのでしよう。K君には発達障害の弟がいます。お母さんは弟君から目が離せません。弟君がK君を困らせることもあるようですが、K君は弟君をかわいがっています。弟君やお母さんを思って我慢していることがあるかもしれせん。

以来、K君が「ねえねえ」と言ってきた時はできる範囲でK君に向き合い、聴く態勢をとるように心がけました。今もK君は手のかからない子ですが、以前より話しかけてくれることが多くなりました。甘えているようにも見えますが、「〇〇して欲しい」を遠慮無く言えるようになったのだと思います。



Y君は3年生のお兄ちゃんと学童保育を利用しています。2人とも小柄です。入所当初はおとなしかったY君ですが、秋にはわんぱく坊主になっていました。同じ1年生のI君にちよっかいを出しては泣かしていました。私には、Y君が「俺の方が強い」とI君に認めさせようとしているように見えました。

その日もY君がI君を泣かしたので、2人からケンカの原因を聞き、Y君に「理由はあるにしてもやり過ぎだ」という話をしました。話が一段落した時、Y君の目にうつつら涙が溜まっていることに気がつきまして、その表情を見て、心に響いたことをそのままY君に言いました。

「ずっと1人で我慢していたの？」
頷いたY君の目から大粒の涙がポロポロこぼれ落ちました。泣き声はこらえています。涙は止まりません。こんな風に泣くY君を見るのは初めてでした。

乱暴な言葉も暴力も、友だち

に負けたくない一心でやっていた事でした。I君に「チビ」と言われて傷ついた心を隠して、I君を攻撃していたのです。Y君は、弱虫と思われるのが嫌で本当のことが言えず、たった1人で必死に戦っていました。Y君には嫌なことは「嫌だ、やめて」と言っていて良い、それは弱虫とは違う、1人だけが我慢するのはおかしいと話しました。

今もY君とI君の関係は相変わらずです。でも、Y君から指導員とゆくり話したり、遊んだりすることを求めてくるようになりました。指導員が相手をしている時のY君の表情はとても穏やかです。

おとなしい子、手のかからない子、元気のいい子、トラブルの多い子、それぞれが「聴いて」のサインを持っています。「聴いて」のサインには、こちらからも「ちゃんと聴くよ」というサインを返す必要があります。小さなサインでもしっかりと受け止めて向き合うと、子どもは安心して話をし、次回もサインを出してくれます。

トラブルの多い子はトラブルの解決で話が終わりがちで、その子の本当の気持ちまでなかなか

かたどりで着けません。何かあると「自分のせいじゃない」とすぐに構える子や「強くないといけない」と思っている子にとっては、本当のことを言うのって結構大変なことです。「言っても大丈夫だよ」「ちゃんと聴くよ」が伝わっていないと話してもらえません。

2つの出来事から、「聴く」というのは、相手としっかりと向き合うことと同じように、相手に「ちゃんと聴くよ」が伝わっていることが大切だと感じました。「聴いて」のサインに気がつき、子どもに「ちゃんと聴いてくれる人」と認めてもらえるように心がけようと思います。

ペンネーム ねこやなぎ

